

長岡のものづくり

明治中期の東山油田の開発に用いる石油掘削機械の製造・修理等の需要に端を発し、機械加工、鉄工業、鋳造業などの基盤的技術をもった企業や大手メーカーが集積しました。

【東山油田ジオラマ模型】



明治21年、北越石油会社を設立した小坂松五郎が東山で噴油を見た以降、長岡は「石油のまち」となり、オイルラッシュとともに、石油採掘機械や諸器具の製造、修理が必要となったため、機械工業が発達しました。

【英式八尺旋盤（須藤鉄工所製）】



昭和6年、丸栄機械製作所が当時500円で購入し、約40年間使った工作機械。



国内唯一の
国産雪上車

自動車等に
搭載される
メータ



マザーマシン
「機械を作る機械」
と呼ばれる
工作機械



様々な機器に
使用される
電子部品



災害経験から
開発された
製品



【災害時非常食】



【災害救助ロボット】



【避難所用更衣室&授乳室】

従来からの基盤的産業に加え、近年では電気・電子機器や液晶・半導体など高度な技術を有する企業がバランスよく集積し、新潟県内随一の「ものづくりのまち」を形成しています。

長岡の伝統産業

古くから受け継がれてきた技術が数多く残る長岡。今もなお、職人たちにより技術が磨かれています。



【曲物】 寺泊

寺泊地域では江戸時代から古い、裏ごし、蒸籠（せいろう）などが盛んに作られ、現在も技術を伝承しています。昭和57年、市の無形文化財に指定。



足立茂久商店



【酒】 全域

良質な米と水がそろった長岡には17の歴史ある酒蔵が存在し、県内随一の酒どころとなっています。



【打刃物】 与板

与板打刃物の起源は戦国時代の刀鍛冶に始まり、江戸時代に大工道具の「のみ」、明治時代に「かんな」の製造に着目し、大工道具の産地となりました。昭和61年、国の伝統的工芸品に指定。



【仏壇】 長岡

200年以上前、長岡を中心とした地域で、寺院・社殿等の建立に集まった宮大工などが、冬期間の内職で仏壇製造を手がけたものが起源とされています。昭和55年、国の伝統的工芸品に指定。



長岡地域仏壇協同組合



【繊維】 新尾

江戸時代、絹織に備えるため長岡藩が絹作以外の産業を振興したことから織物の産地として全国に広まりました。現在は合繊を中心に付加価値の高い製品を生産しています。



新尾織物工業協同組合



【和紙】 小国

小国和紙は、小国地域で古くから農家の副業として生産され、中でも雪を利用し古式の製法で作った紙を「小国紙」と言います。昭和49年、県の無形文化財に指定。



御小国和紙生産組合



【のこぎり】 三島

三島地域監野町ののこぎりは、天保年頃に会津若松でののこぎりの鍛冶法を習得した中屋庄兵衛が技術を伝えたのが始まりとされています。



中長鋸製販



【てまり】 新尾

袖の産地である新尾地域では、古くから袖の残糸を利用した手かがりてまり作りが盛んでした。現在は、「新尾てまりの会」が技術の伝承に取り組んでいます。



新尾てまりの会